

北海道浮魚ニュース

令和2（2020）年度14号

2020年8月26日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

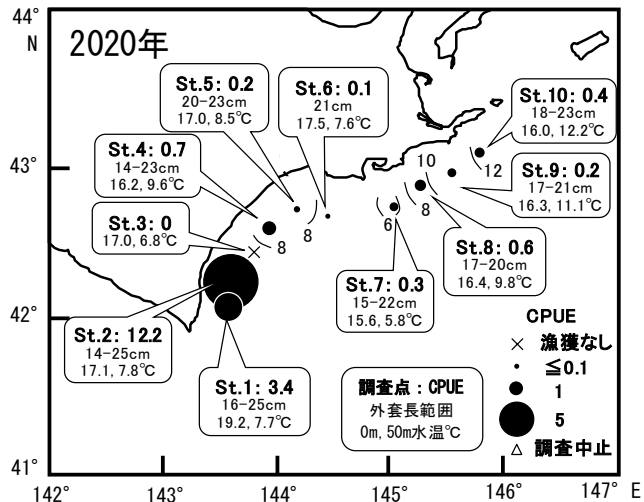
◎イカ類南下期資源調査結果

- ・調査海域の広い範囲でスルメイカの分布がみられた
- ・分布密度は昨年を上回ったものの2016年以降の低い水準にある

- ・調査期間：2020年8月18～23日
- ・調査海域：道東太平洋沿岸
- ・調査船：北辰丸（255トン、イカ釣機5台装備）
- ・調査方法：イカ釣機による1晩2地点の夜間釣獲調査、CTDによる海洋観測

1. 水温分布（図1）

調査点10点の2020年の表面水温は16.0～19.2℃（昨年：14.7～19.1℃）の範囲にあり、10点中6点で昨年を上回りました。50m深の水温は5.8～12.2℃（昨年：3.0～12.9℃）の範囲にあり、10点中6点で昨年を上回りました。昨年に比べ、表面と50m深ともに、各地点間の温度差は小さく、調査海域の東側で水温が高い傾向がみられました。



2. スルメイカの分布密度

漁獲調査点10点全てで釣獲調査を実施しました。うち大樹沖 St.3を除く9点でスルメイカの漁獲がみられ、調査海域全体に広く分布していることがうかがえました（図1）。最も分布密度が高かったのは広尾沖 St.2でCPUE（イカ釣機1台1時間あたり漁獲尾数）は12.2、次いで襟裳岬東 St.1でCPUEは3.4でした。全調査点の平均CPUEは1.80で昨年（0.45）を上回り（図2）、各調査点のCPUEも10点中8点で昨年を上回りました（図1）。ただし値としては、依然2016年以降の低い水準に止まっています。

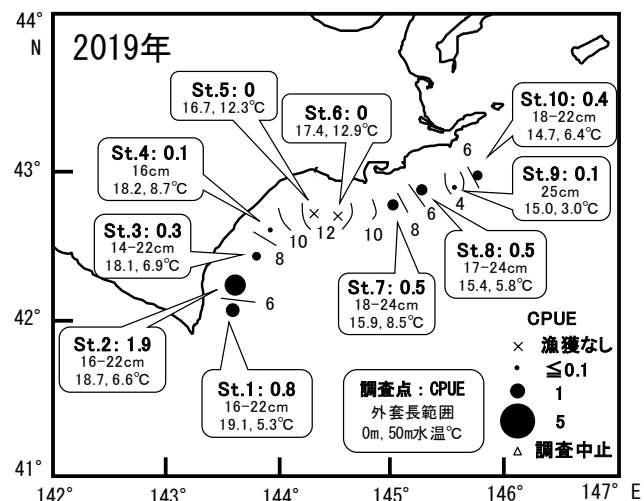


図1 2020年（上）と2019年（下）の漁獲調査結果と水温。●は漁獲調査点を示し大きさはCPUE(イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数)を表す。等温線は50m深の水温分布

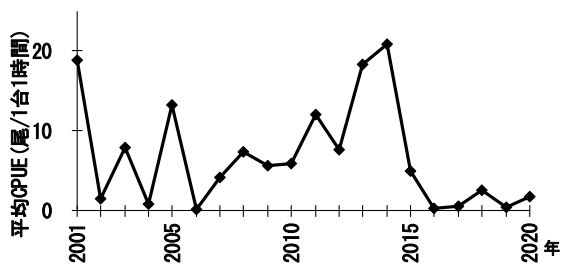


図2 8月道東太平洋におけるスルメイカ平均CPUEの経年変化

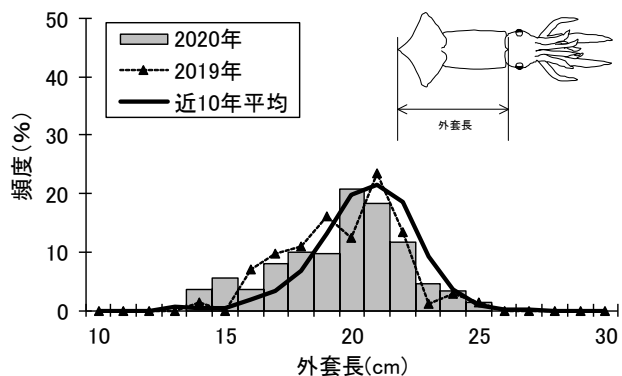


図3 8月道東太平洋におけるスルメイカの体長組成

3. スルメイカの大きさ

全漁獲調査点のスルメイカの外套長(胴長)は14～25cm(昨年14～25cm)の範囲にありました(図1)。海域全体の外套長のモード(最も多く漁獲されたイカの大きさ)は20cm(昨年21cm)にあり、全体的に過去10年平均に比べ小型の個体の比率が高くなっていました(図3)。

4. アカイカ

昨年10調査点中6点でみられたアカイカの漁獲は、今回の調査ではみられませんでした。

(釧路水産試験場調査研究部 TEL: 0154-23-6222, FAX: 0154-23-6225)